

団体名 サポート重久 活動地域 霧島市

Ⅰ 地域の課題解決ワークショップ

(1) 地域の自慢できること

- ① 高齢者の地域力の強さ
- ② 地域ならではの助け合いがあり、感謝を伝えあい思いあえる。
- ③ 自主的なボランティア活動が盛ん
- ④ 育った子どもたちが実家へ田植え等の手伝いでよく来ている。

(2) 地域活動の課題

- ① コロナ禍以降の行事等の復活（秋まつりから）
- ② 地域活動の旗振り役不足
- ③ 子どもとの交流
- ④ 子育て世代のサポート

(3) 地域の強み

- ① 住みやすさから移住者が増えている。
- ② 大型スーパー到来！
- ③ Iさん（民生委員）の存在
- ④ 空き家（いこいハウス）を利用して「見守り弁当」を作っている。

(4) 地域の資源

- ① 住民手作りのグラウンド・ゴルフ場（重久広場）と道具セット及びイス（ボール、旗、ボール置きなどは、地域住民が裁縫、溶接などをして作成）
- ② 地域の山を売って建てた公民館



2 作成したアクションプラン「はじめの一步」

(1) 1～2か月後の取組

- ① 実施内容（プラン1）
子どもと一緒に米づくり体験を行う。
- ② 方法等
7月に田植えを行うとともに、おにぎりをつくって一緒に食べる。
10月には稲刈りと昼食会を実施する。

- ① 実施内容（プラン2）
地域交流や生きがいをづくりのために青空市を開催する。
- ② 方法等
隔月第3日曜日に重久広場に手作りのものを持ち寄って販売する。

(2) 半年後の取組

- ① 実施内容
地域交流のために、「子どもも大人も集まれ！重久グラウンド・ゴルフ大会」を実施する。
- ② 方法等
11月の第2土曜日の午後、東その山グラウンドで開催する。

3 アクションプランの実施状況

(1) 上手くいっていること

- 米づくり体験は、田植えも稲刈りも計画どおりに実施できた。収穫した餅米は販売し、12月に開催する餅つき大会とそば打ちの資金とした。
- 青空市も9月、11月、1月…と順調に開催できており、カゴづくりや野菜づくりなどの技術・能力を発揮できる場所ができたことで、生きがいがぐりにつながっている。また、地域外からのお客さんが来ることも、活力の源になっている。
- 「重久グラウンド・ゴルフ大会」も実施でき、親子連れとの世代間交流を行うことができた。
- 従前から行っている見守り弁当の宅配も継続しており、安心安全な地域づくりに寄与できている。



(2) 困っていること

- 青空市の会場にもなっている住民手作りのグラウンド・ゴルフ場（重久広場）は、現在、貸主の厚意で無料で借り受けているが、土地が売却された場合、代わりの活動場所をどうするか、思案中である。

4 私たちの次の一歩

(1) 青空市（重久マルシェ）の継続

手作りのカゴや野菜、惣菜などを販売する「青空市」を継続していきたい！

- 日時：隔月の第3日曜日 8：00～11：00（例外あり）
- 場所：重久広場
- 地域の回覧板などで青空市の開催を周知する。
- サポート重久が中心となって、知人に声を掛けるなどして協力者を増やす。



(2) 「見守り弁当」の継続

みんなで安心して暮らせる地域づくりのため、一人暮らしの高齢者や85歳以上の方にお弁当を作って届ける「見守り弁当」活動にも引き続き取り組んでいきたい！

- 日時：毎月最終月曜日 7：30～11：00
- 場所：いこいハウス

団体名 漆校区コミュニティ協議会 活動地域 始良市

I 地域の課題解決ワークショップ

(1) 地域の自慢できること

- ① 名所・旧跡が多い。
- ② 自然がいっぱい。
- ③ 若者との交流がある。

(2) 地域活動の課題

- ① 自治会の再編
- ② 独居世帯とのつながり
- ③ 助け合い活動（ゴミ出し支援など）の拡充

(3) 地域の強み

- ① 高齢者が元気
- ② 皆、顔なじみで連携を取りやすい。
- ③ 学校の行事に地域全体で取り組んでいる。
- ④ 漆地区への道は三通りあるので孤立しにくい地形となっている。
- ⑤ 寸劇グループ「お米さんありがとう」の存在
- ⑥ 伝統芸能「バラ踊り」がある。
- ⑦ サロン活動（週1回）や、「お茶飲み会」（月1回）など日常的な地域交流がある。
- ⑧ 築100年を超える古民家を利用した漆カフェがある。



(4) 地域の資源

- ① 漆の里万来（ばんらい）館（宿泊も可能（2,000円））
- ② お助け隊（庭掃除など1時間1,100円）
- ③ コミュニティ協議会のバス（10人乗り）
- ④ J A 移動販売「美味ちゃん号」や移動金融車「I♡Ra（あいら）ちゃん号」

2 作成したアクションプラン「はじめの一步」

(1) 1～2か月後の取組

- ① 実施内容
課題やつながりの見える化を目的に、支え合いマップを作る。
- ② 方法等
8月19日に、漆の里万来館で、コミュニティ役員・民生委員・地域住民が集まって作成する。
その際、市社会福祉協議会と地域包括支援センターの協力を得る。

(2) 半年後の取組

- ① 実施内容
住民の交流を目的として、日帰り旅行を実施する。
- ② 方法等
コミュニティ協議会のスタッフと希望者が、稲刈りの時期を過ぎた11月～12月頃に、コミュニティ協議会のバスを利用して、県内を日帰りで旅行する。

3 アクションプランの実施状況

(1) 上手くいっていること

- 計画した8月には間に合わなかったものの、12月に「お茶飲み会」のメンバーで「支え合いマップづくり」をスタートさせた。「お茶飲み会」には、サロン活動へ参加していない方も来るため、多様な意見を取り入れることができています。
- コミュニティ協議会所有の材木の売却が決まり、自主財源が確保できた。
- 11月に第2回ちびっこ駅伝が開催され、地域活性化につながった。



(2) 困っていること

- 一人暮らし世帯や高齢者世帯は増えているが、新たに「お茶飲み会」へ参加する方が少ない。
- 担い手となる若手高齢者が多忙であり、活動に参加することが難しい。
- 「お茶飲み会」メンバーの高齢化も進んでいる。
- 以前は、「お茶飲み会」のほか、食事会も行っていたが、予算の不足により開催できない状況がある。



4 私たちの次の一歩

(1) 支え合いマップづくりの継続

スタートを切った「支え合いマップづくり」に、引き続き市社会福祉協議会と地域包括支援センターの協力を得ながら、継続して取り組みたい！

12月の実施状況

- 日時：12月15日 13:00～15:00
- 場所：漆の里万来館
- 「お茶飲み会」での「支え合いマップづくり」スケジュール
お茶飲み会（30分）→マップづくり（60分）→歌や体操のレクリエーション（30分）



(2) 「日帰り旅行」の実施

参加者の日程調整がつかず、まだ実施できていない県内の日帰り旅行を実現させたい！

団体名 吉松・上川西地区 活動地域 湧水町

1 地域の課題解決ワークショップ

(1) 地域の自慢できること

- ① 水がきれい。
- ② 米がおいしい。
- ③ 温泉でのんびりできる。

(2) 地域活動の課題

- ① 若者がいない。
- ② リーダーになる人がいない。
- ③ 栗野地区に比べて店が少ない。
- ④ コロナ禍で地域の交流の場が少なくなった。
- ⑤ 日常生活のちょっとした困りごとを頼む仕組みがない。



(3) 地域の強み

- ① 団結力がある。
- ② あいさつができる。仲が良い。



(4) 地域の資源

- ① 湧き水
- ② 温泉（泉質が豊富）
- ③ 古民家・お食事処
- ④ 鬼火焚き（厄払い）
- ⑤ 門松づくり
- ⑥ 池平公園
- ⑦ 雲海
- ⑧ 自衛隊

2 作成したアクションプラン「はじめの一步」

(1) 1～2か月後の取組

- ① 実施内容
地域の交流のために敬老会を実施する。
- ② 方法等
公民館役員が中心となって、9月18日に、シルバーケアセンターで敬老会を実施し、歌や肩たたきで子ども会とも交流する。

(2) 半年後の取組

- ① 実施内容
地域交流のために、「門松づくり&風づくり」を実施する。
参加者には豚汁を振る舞う。
- ② 方法等
12月中旬に、地区住民に声を掛けて、地区公民館で実施する。
地区役員と福祉アドバイザーが、一人暮らしの高齢者に門松を配布する。

3 アクションプランの実施状況

(1) 上手くいっていること

- 定期的にサロンを開催しており、毎回多くの方が参加している。サロンへの参加を楽しみにしている方もおり、生きがいがづくりにつながっている。
- 12月に子ども会や地域住民と一緒に、「門松づくり&風づくり」を実施した。参加者の協力もあり、スムーズに作業が進んだ。一人暮らしの高齢者への門松の配布も行うことができ、喜んでもらうことができた。



(2) 困っていること

- 9月に実施を予定していた敬老会は、子どもたちとの交流も予定していたことから、新型コロナウイルス感染症予防のため実施できなかった。
- サロンの日程調整や実施内容を考えるのが大変である。
- サロンへ参加する交通手段がなく、参加できない方がいる。
- サロンの参加者には男性が少ない。
- サロンのリーダー（担い手）が少ない。

4 私たちの次の一歩

■ 三世代の交流活動の継続

12月に行った「門松づくり&風づくり」のような、三世代が交流できる活動を続けていきたい！

12月の実施状況

- 日時：12月24日 9：00～13：00
- 場所：吉松中央公民館
- 子ども会や地区住民に参加を呼び掛けた。
- 当日の内容
男性は門松づくり、女性は豚汁づくり、子どもたちは門松の飾り付けと、みんなで役割分担をして作業を行った。
また、地区住民の指導のもと、子どもたちが風づくりを行った。
完成後はみんなで昼食を食べ、その後、地区役員と福祉アドバイザーが一人暮らしの高齢者のもとへ門松を届けた。



団体名 栗野・老竹地区 活動地域 湧水町

I 地域の課題解決ワークショップ

(1) 地域の自慢できること

- ① 水がきれいで蛍が多い。
景色（桜島）がきれい。緑が多い。
- ② 茶が名産
- ③ 元気な高齢者が多く、グラウンド・ゴルフが盛ん。
- ④ 皆が協力的



(2) 地域活動の課題

- ① 交通手段が限られている。
- ② 自治会の未加入者が増えつつある。
- ③ 人口が少なくなり、自治会活動が大変になっている。
- ④ 一人暮らし世帯が多い。
- ⑤ グラウンド・ゴルフ以外の活動への男性の参加者が少ない。
- ⑥ 地元に働く場が少ない。



(3) 地域の強み

- ① 具材持ち寄りの鍋サロン（60人も集まる）
- ② できる人ができることを、みんなで笑顔で取り組んでいる。
- ③ 地区からの補助で活動費がまかなえる。

(4) 地域の資源

- ① 「アジサイロード」（整備中）
- ② 竹
- ③ 福祉部の取り組み

2 作成したアクションプラン「はじめの一歩」

(1) 1～2か月後の取組

- ① 実施内容
サロン活動への男性の参加を呼び掛けるため、「サロンのお知らせ・おたより」を配布する。
- ② 方法等
福祉部が中心となって、9月・10月に安否確認を兼ねて配布する。

(2) 半年後の取組

- ① 実施内容
地域の高齢者の交流を目的として、12月にクリスマス会を、1月に鍋サロンを実施する。
- ② 方法等
福祉部が中心となって、12月・1月に参加を呼び掛け、地区コミュニティセンターで実施する。呼び掛けの際は、特に男性へ重点的に声を掛ける。

3 アクションプランの実施状況

(1) 上手くいっていること

- クリスマス会と鍋サロンは、計画どおりに盛大に実施することができた。
- サロンの運営にみんなが協力的で、メンバー同士、自分のできることを進んで手伝っている。
- サロンへの参加が初めての男性も、大変楽しんで様子だった。



(2) 困っていること

- 新型コロナウイルス感染症予防のため敬老会ができず、見守り活動を兼ねて行う予定だった「サロンのお知らせ・おたより」の配布もできなかった。
- サロン参加者の交通手段が限られている。

4 私たちの次の一歩

■ 地域の交流活動の継続

サロン活動はもちろん、「クリスマス会」や「鍋サロン」のような魅力的なイベントにも取り組んで、地域の高齢者のつながりを深めていきたい！

12月の実施状況（クリスマス会）

- 日時：12月22日 11:00～13:30
- 場所：老竹地区コミュニティセンター
- 当日は各自、クリスマスプレゼントを用意して来てもらい、みんなでレクリエーションをして楽しんだ。
- 参加者が開催日を忘れることのないよう、実施日に○を付けたカレンダーを前もってサロンで配布した。

1月の実施状況（鍋サロン）

- 日時：1月26日 11:00～13:30
- 場所：老竹地区コミュニティセンター
- 鍋のほか、脳トレゲームや体操、誕生日会などをして盛り上がった。



団体名 岩川校区社会福祉協議会 活動地域 曾於市

Ⅰ 地域の課題解決ワークショップ

(1) 地域の自慢できること

- ① 弥五郎どん祭りがある。
- ② 人が優しく地域活動に積極的である。
- ③ 豊かな自然と共存している。

(2) 地域活動の課題

- ① 地域活動の人材が不足している。
- ② 活動費の工面に苦労している。
- ③ 地域活動への理解がなかなか得られない。

(3) 地域の強み

- ① 住んでいる人が優しく、つながりが強い。
団結力があり、人の熱意が強い。
- ② 曾於市で1番人口が多い校区である。
- ③ 子どもたち（小中高生）が礼儀正しく、挨拶をしてくれる。
- ④ 学校や民生委員と関わる機会が多い。

(4) 地域の資源

- ① 自然が豊かで水がおいしく葉草もある。
- ② 高齢者が元気で、グラウンド・ゴルフや体操教室が盛ん。
- ③ 国の合庁やJAの本所がある。
- ④ こども園や小中学校がある。



2 作成したアクションプラン「はじめの一步」

(1) 1～2か月後の取組

① 実施内容

若者に地域課題の解決のための意見をもらい、地域活動に参画してもらう。

② 方法等

10月に、校区社協と市社協が大隅中学校を訪問し、「対話のテンプレート」のシートを使って、大隅中学校の生徒から、今後の取組についてのアイデアをもらう。

(2) 半年後の取組

① 実施内容

地域活動への理解を深めるため、若者と校区社協などの地域活動者との交流を図り、ゆくゆくは若者のボランティアグループの発足を目指す。

② 方法等

1～2月に、大隅中学校の生徒と、校区社協（民生委員・アドバイザー）が、構造改善センターで茶話会をする。

3 アクションプランの実施状況

(1) 上手くいっていること

- 校区社協が、大隅中学校の生徒を対象に「地域活動について知ろう・やろう・語ろう」と題し、校区社協の活動の紹介をしたり質問に答えたりして、交流を深めた。
結果として、校区社協の活動に対し、先生や生徒からの理解を得ることができ、協力者が増えた。
- 大隅中学校内のボランティアグループの発足に近づいた。
- 若者と交流することで元気をもらった。

(2) 困っていること

- 実施内容について学校と認識のずれがあったので、事前に実施内容を詳細に示しておく必要があった。
- 実施日程について、学校カリキュラムとの調整が難しかった。



4 私たちの次の一步

■ 若者との交流会の開催

大隅中学校内のボランティアグループ発足に向けて交流会をしたい！

- 日程：調整中
- 場所：大隅中学校（予定）
- 交流会ではグループワークのほか、茶話会や脳トレゲーム、昔遊びなどで世代間交流を行う。

団体名 財部校区北俣社会福祉協議会 活動地域 曾於市

1 地域の課題解決ワークショップ

(1) 地域の自慢できること

- ① 霧島連山が一望できる。
- ② 美味しく有名な財部茶がある。
- ③ みんな人懐っこい！！

(2) 地域活動の課題

- ① 孤立化に悩む人が多い。
- ② 後継者不足
- ③ 買い物をするところがない。

(3) 地域の強み

- ① 地元育ちの人が多く。
- ② 地域のつながりが強く、頼まれごとにも快く手伝ってくれる。
- ③ 電車・バス・高速道路など、交通の便がよい。
- ④ 現役で仕事をしている、元気な高齢者が多い。
- ⑤ 農家が多く、土地が沢山ある。

(4) 地域の資源

- ① 財部駅、北俣駅、大川原駅、白ヶ岳展望所、商売繁盛に御利益がある日光神社がある。
- ② 地域食堂（まるこ食堂）、体操教室、サロンがある。
- ③ 移動販売車が来る。
- ④ 在宅福祉アドバイザーが多い。



2 作成したアクションプラン「はじめの一步」

(1) 1～2か月後の取組

① 実施内容

地域住民が気軽に集える、居場所・拠点づくりのため、先進的な取組を実施している宮崎県三股町社協へ視察研修に行く。

② 方法等

9月中旬に、校区社協役員及び在宅福祉アドバイザーで、三股町社協及び三股コミュニティスペースへ視察研修に行く。

(2) 半年後の取組

① 実施内容

地域住民の居場所づくり・拠点づくりに取り組む。

② 方法等

3～4月をめどに、先の視察研修で得た学びをもとに、校区社協と地区住民で協力して空き家の選定、改築等を行い、地域住民の居場所・拠点を用意する。

3 アクションプランの実施状況

(1) 上手くいっていること

- 8月に三股町へ視察研修に行くことができた。
- 校区社協の「居場所・拠点づくり」の取組を地域の人に知ってもらうことで、協力者も増えた。
- 地域住民の居場所・拠点づくりに向け、場所の選定と調整まで完了することができた。



(2) 困っていること

- 「居場所・拠点」を住民同士がつながり相談が出来る場とするために、どのような活動内容にしていくかが具体的に決まっていない。
- 「居場所・拠点づくり」の建物の改築費用の調達



4 私たちの次の一歩

■ 「居場所・拠点づくり」の準備

地域住民の居場所・拠点づくりのための準備を進める！

「居場所・拠点づくり」までの流れ

- 拠点の目的・必要性の明確化
- 改築費用の資金調達
- ニーズ調査
- 工事の契約
- 完成後の周知、広報
- 4～5月 OPEN！！

3月1日時点の進捗状況

- 拠点の目的を「つながる場所・出会える場所」に設定し、最初は茶飲ん場、相談場所として開設することにした。
- 場所の選定も済み、現在は所有者と契約内容を詰めている。
- 今後は、地域の理解を得るためのチラシを配布し、周知に努める予定
- 来年度オープンに向けて着実に前進している。



団体名 中部校区社会福祉協議会 活動地域 曾於市

I 地域の課題解決ワークショップ

(1) 地域の自慢できること

- ① 病院やスーパーが近い。
- ② 温かい人柄の人が多い。
- ③ 自然が豊かな。

(2) 地域活動の課題

- ① サロン、体操教室へ行くための交通手段が少ない。
- ② 安否確認を充実させる必要がある。
- ③ 緊急時の連絡体制を整えたい。

(3) 地域の強み

- ① 子ども食堂への差し入れが多い。
- ② サロン活動が多く、参加者のつながりが強い。
- ③ 曾於市の中心地で人口が多い。
- ④ 月1回グラウンド・ゴルフ大会があるなど、地域の行事も多い。
- ⑤ 地域包括支援センターと校区社協がある。

(4) 地域の資源

- ① 公園、コンビニ、飲食店が多い。
- ② 学校（小学校・中学校・高等学校）、保育園が集中して存在している。
- ③ プール、ジムなどの公共施設がある。



2 作成したアクションプラン「はじめの一步」

(1) 1～2か月後の取組

- ① 実施内容
グラウンド・ゴルフやサロンへ行くための交通手段を確保するため、乗り合いタクシーの調査をする。
- ② 方法等
10月上旬頃、校区社協役員が、中部校区エリアを運航している「曾於市思いやりタクシー」を利用体験する。

(2) 半年後の取組

- ① 実施内容
思いやりタクシーの利用、運行について市へ要望書を提出する。
- ② 方法等
3月をめどに提出する。

3 アクションプランの実施状況

(1) 上手くいっていること

- 市の担当課を巻き込み、思いやりタクシーの役割等を聞くことができた。
- 10月19日に、曾於市思いやりタクシーを利用体験することができた。
- 11月9日に振り返りを行い、思いやりタクシーの利用趣旨や形態についての共通理解・認識を持つことができた。



(2) 困っていること

- サロンや体操教室へ行くための交通手段として思いやりタクシーの利用を想定した場合、手すりの位置など、車内環境に課題がある。
- 思いやりタクシーの路線や時刻表が周知不足のため利用しづらい。



※ 曾於市思いやりタクシー

交通弱者の交通手段確保と市民生活の利便性向上を図ることを目的とした、地域内移動を支援する定時定路線タクシー

4 私たちの次の一歩

■ 思いやりタクシーの利用促進に向けた検討

2月29日に市担当課へ「思いやりタクシー乗車体験報告書」を提出したり、サロンや体操教室等で実施する年1回の遠足や観光の際に、思いやりタクシーを利用できないか検討したりするなど、思いやりタクシーの利用に向けて、活動中！

思いやりタクシー乗車体験報告書提出までの流れ

- 乗車体験後のアンケートと感想をまとめ、報告書の素案を作成
- 報告書内容の確認
- 利用促進のためのアイデアを検討し、例示を列挙する。
- 市担当課へ報告書を提出



団体名 安楽校区 活動地域 志布志市

1 地域の課題解決ワークショップ

(1) 地域の自慢できること

- ① 世話を焼いてくれる人がいる。
- ② 自然や文化が豊か
- ③ 人口が増えている。

(2) 地域活動の課題

- ① 地域活動の担い手不足
- ② サロンなどの地域活動へ参加するための交通手段がない。
- ③ ゴミの分別が不十分

(3) 地域の強み

- ① 芸術家や、木工・小物・昔の道具づくりなどの特技を持った人が多い。
- ② 小学生の見守り安全パトロールなどをする、志の高い人がいる。
- ③ 地理的に、津波が到達しづらい。

(4) 地域の資源

- ① 自治会の集会所という活動拠点がある。
- ② 社寺仏閣があり、春祭り・イベントなどで人が集まる。
- ③ フェリー「さんふらわあ」が就航している。

※ 研修においては、原田校区と同一グループで意見を出し合った。



2 作成したアクションプラン「はじめの一步」

(1) 1～2か月後の取組

① 実施内容

ゴミの分別が十分になされていない現状を改善するため、ゴミの分別を有償ボランティア化する。

② 方法等

8月から、サロン関係者がそれぞれの活動場所で声掛けを実施し、協力者を募る。

(2) 半年後の取組

① 実施内容

活動する仲間を増やすため、各サロンで、参加者に、それぞれの特技を生かした分野で講師になってもらう。

② 方法等

3月に公民館で、参加者に特技などを紹介・披露してもらう。

3 アクションプランの実施状況

(1) 上手くいっていること

- ゴミ出しに困っている方を支援する活動ができた。
- 集落内で声掛けをすることで、支援を求める方に気づくことができ、支援者と被支援者の関係性を構築することができた。
- 同じような活動をしている個人や団体とつながることができた。

(2) 困っていること

- ゴミの分別を支援する、新規の協力者を獲得することができていない。



4 私たちの次の一歩

(1) 地域づくりの活性化

4月以降に予定しているコミュニティ協議会の設立をきっかけにして、更なる仲間づくりを進めたい！

- コミュニティ協議会設立後、それぞれの団体が取り組んでいる活動について情報共有を図る。
- 地域全体で、住民と協働してできることを話し合う。
- 地域住民へ、コミュニティ協議会の活動内容を発信し、「地域全体で支え合う体制づくり」の気運を醸成していく。



(2) 「半年後の取組」の実施

コミュニティ協議会の設立後、「半年後の取組」で計画した「サロン参加者に特技を生かして講師になってもらう試み」を実践したい！



団体名 原田校区 活動地域 志布志市

1 地域の課題解決ワークショップ

(1) 地域の自慢できること

- ① 世話を焼いてくれる人がいる。
- ② 自然や文化が豊かな

(2) 地域活動の課題

- ① 地域活動の担い手不足
- ② サロンなどの地域活動へ参加するための交通手段がない。
- ③ ゴミの分別が不十分

(3) 地域の強み

- ① 芸術家や、木工・小物・昔の道具づくりなどの特技を持った人が多い。
- ② 地理的に、津波が到達しづらい。

(4) 地域の資源

- ① 自治会の集会所という活動拠点がある。
- ② 障害者就労継続支援事業所との交流を行っている。

※ 研修においては、安楽校区と同一グループで意見を出し合った。



2 作成したアクションプラン「はじめの一步」

(1) 1～2か月後の取組

① 実施内容

活動の仲間を増やすため、サロン活動の資金づくりをする。

② 方法等

サロン仲間が所有する稲刈りの済んだ田んぼで、桜島大根・高菜・ブロッコリーなどの野菜を育てる。

(2) 半年後の取組

① 実施内容

活動の仲間を増やすため、サロン活動の資金づくりをする。

② 方法等

サロンボランティアと一緒に、野菜の直売所をつくり、野菜を販売する。

3 アクションプランの実施状況

(1) 上手くいっていること

- 収穫が終了した田んぼに、5種類の野菜の種をまくことができた。
- 地域の方々に声を掛けると、種まき・植付けなどに快く協力してもらえた。
- サロン参加者と、野菜の直売所を作ることができた。

(2) 困っていること

- 協力してくれる、若手のボランティアがいない。



4 私たちの次の一歩

■ 資金づくりと地域住民との交流の継続

引き続き、育てた野菜を販売してサロン活動の資金づくりを行うとともに、地域住民との交流を図りたい！

- 種まき、植付けの終わった畑については、草取りなどの維持管理を行う。
- 収穫体験・販売体験という形で地域住民にも活動に参加してもらい、交流を深める。
- 「コミュニティ協議会だより」で直売所の紹介をしてもらい、収益アップをねらう。

地域住民の反応

- 地域住民に、ほうれん草や大根の収穫体験や、志布志文化会館での販売体験に参加してもらった。「ほんとうに売れるんだ」と感動していて、こちらまで嬉しくなった。



団体名 荒佐野長寿会 活動地域 大崎町

I 地域の課題解決ワークショップ

(1) 地域の自慢できるところ

- ① 伊勢神宮の祭神を勧請した照日神社がある。
- ② 神舞、棒おどり、六月灯などの伝統文化がある。
- ③ 日本軽種馬協会九州種馬場がある。

(2) 地域活動の課題

- ① 地域活動への参加者が少ない。
- ② 地域活動の数やボランティア数が少ない。
- ③ 活動できない方への対応を検討する必要がある。

(3) 地域の強み

- ① 地域住民の結束が強い。
- ② 水害、がけ崩れなどの自然災害が少ない。
- ③ 平野のため、農業が盛ん

(4) 地域の資源

- ① 照日神社
- ② 神舞、棒おどり、六月灯などの伝統文化



2 作成したアクションプラン「はじめの一步」

(1) 1～2か月後の取組

- ① 実施内容
生きがいづくりや仲間づくりのために、そば作りの準備を行う。
- ② 方法等
チラシを作成し、荒佐野長寿会が中心となって、そばの実の種や畑の提供を呼び掛ける。

(2) 半年後の取組

- ① 実施内容
生きがいづくりや仲間づくりのために、そばの実の収穫とそば打ち、食事会を実施する。
- ② 方法等
11～12月に、荒佐野長寿会が中心となってそばの実を収穫する。
また、野方地区活性化センターでそば打ちと食事会を行う。

3 アクションプランの実施状況



(1) 上手くいっていること

- そばの種を蒔くための土地（稲刈り後の田んぼ）がすぐに見つかった。
- 声掛けをすると、種まきや収穫に、老人クラブ会員が参加してくれた。
- 参加者がそば作りの段取りを知っており、スムーズに作業ができた。
- トラクターや必要な道具などは各自で持ち寄った。
- 12月に、そば打ち体験と食事会を実施することができた。

(2) 困っていること

- そばの実を収穫する際にトラクターの爪が壊れるアクシデントがあった。けが人は出なかったものの、リスクマネジメントの必要性を感じた。
- 無償で借り受けた土地の持ち主へのお礼をどのようにしたらよいか。

4 私たちの次の一歩

■ そば打ち体験の継続

そば打ち体験と食事会で、生きがいづくり・仲間づくりだけでなく、世代間交流も進めていきたい！

12月の実施状況

- 日程：12月12日
- 場所：野方地区活性化センター
- 老人クラブ会員や荒佐野地区の子どもたちに参加を呼び掛けた。
- 道具の準備、場所の手配、そば粉の手配、参加者の調整などの事前準備を行った。
- 子どもたちとの日程調整が上手くいかず、結果的に平日開催となり、子どもたちの参加がなかったのは反省点。
- そば打ち班と、調理班に分かれ、美味しいそばができた。
- 来年用の種も6キロ確保している。



団体名 菱田校区 活動地域 大崎町

1 地域の課題解決ワークショップ

(1) 地域の自慢できること

- ① ごみのリサイクル率12年連続日本1位
- ② 「ジャパンアスリートトレーニングセンター大隅」がある。
- ③ ウミガメの産卵地でもある大崎海岸がある。

(2) 地域活動の課題

- ① ごみ分別が不十分で、夜間や区外からのゴミ出しもある。
- ② 近隣に店がない。
- ③ サロン参加者が減少傾向にある。

(3) 地域の強み

- ① 全住民が参加する「正坂オリンピック大会」がある。
- ② 交通安全の児童見守り活動が行われている。
- ③ あいさつ運動（ひまわり活動）が盛ん
- ④ ごみ出し顧問によるチェックがある。

(4) 地域の資源

- ① シラス、シラスウナギが獲れる。
- ② 地域の自転車販売店が自転車の安全点検を実施している。
- ③ 30年以上あいさつ運動が継続している。
- ④ 警察署に依頼して交通安全教室を実施している。



2 作成したアクションプラン「はじめの一步」

(1) 1～2か月後の取組

- ① 実施内容
ごみ分別が十分でないため、ごみ分別についての勉強会を実施する。
- ② 方法等
10月頃に、サロン参加者が「そおりサイクルセンター」を見学し、ごみの分別の方法などを学ぶ。

(2) 半年後の取組

- ① 実施内容
先のごみ分別研修を踏まえ、更に分別を極めるため、勉強会を実施する。
- ② 方法等
4月に、サロン参加者が有機工場と埋め立て地の現場を見学するとともに、ごみの分別について更に詳しい研修を受講する。

3 アクションプランの実施状況

(1) 上手くいっていること

- 9月に、「正坂いきいきサロン」のメンバー17人が「そおりサイクルセンター」を見学し、ごみの分別作業の状況についてセンター職員から説明を受けるとともに、町職員から町のリサイクル事業について学んだ。
- 4月に予定していた埋め立て処理場の見学・研修についても、10月に前倒して実施することができた。
- ごみステーションに監視カメラを設置してもらえた。

(2) 困っていること

- サロン参加者以外の方に、ごみの分別を徹底してもらうための対応策や、通行人によるごみのポイ捨てへの対処方法をどうするか。



※ 研修の成果

分別されているごみは機械でスムーズに流れるが、分別されていないものは手作業で分別されることがや、生ごみにおいて、再利用の工程などを学んだ。
見学するまで、町内にごみ処理施設があることを知らない方もいたため、有意義な研修となった。



4 私たちの次の一歩

■ ごみ出し困難者への支援

研修で学んだことを生かして、校区内のごみ出し困難者への支援に力を入れていきたい！

- 認知症の方とその家族のごみ分別を手助けする。
- サロン参加者で、お手伝いを必要とする方のごみ分別に立ち会う。
- 町の「ごみ出し困難者対策事業」で支援対象とされた、校区内のごみ出し困難者を手助けする。



団体名 永田町おがみ山自治会 活動地域 奄美市

I 地域の課題解決ワークショップ

(1) 地域の自慢できること

- ① 町のシンボルである「おがみ山」がある。
- ② 町の中心地にあるため、商店街や役所が近い。
- ③ 自治会の班長が若く、地域にまとまりがあるので計画がすぐに伝わる。
- ④ 地域住民同士の顔がよく見える。



(2) 地域活動の課題

- ① 会費の値上げ
- ② 交流できる場所がない。
- ③ 子ども会がない。

(3) 地域の強み

- ① 若い親子世帯が多い。
- ② 案内板が機能しており、貼紙をするだけで、地域全体に情報が伝わり、行事へ参加してもらうことができる。
- ③ 住民が地域のために動いてくれる土壌がある。
- ④ 防災意識が高い。



(4) 地域の資源

- ① 鳥の鳴き声が聞こえること
- ② 飲み屋街に近いこと
- ③ 商店・学校が近いこと

2 作成したアクションプラン「はじめの一步」

(1) 1～2か月後の取組

- ① 実施内容
子ども会の立ち上げを目指し、親子ふれあい活動として、旧NTT裏の川沿いの伐採作業を行う。
- ② 方法等
8月の第3日曜日に実施する。
開催に当たり、会長が各班長に周知するとともに、案内板へチラシを掲示する。

(2) 半年後の取組

- ① 実施内容
子ども会の育成のため、子どもが参加したくなるようなイベントを開催する。
- ② 方法等
クリスマス前後にイベントを開催し、子ども会への加入を促進する。

3 アクションプランの実施状況

(1) 上手くいっていること

- 伐採作業は、子どものいる世帯へ文書で周知し、計画通りに実施できた。
- 出欠の返事もあり、しっかりと反応をもらうことができた。
- 当日は自治会会員の参加もあり、参加者とコミュニケーションを取ることができた。



(2) 困っていること

- 伐採作業に参加できなかった世帯へ、次のアプローチ方法をどうするか。
- チラシ（周知文書）の作成や配布を、自治会長一人で行っているため負担が大きい。
- 子ども会の立ち上げに至っていない。



4 私たちの次の一歩



■ 子ども会立ち上げの気運の醸成

今後も市社協や介護施設などと連携したイベントの開催や、子ども食堂の開設により、子ども会立ち上げの機運を盛り上げていきたい！

1月の実施状況（もちつき大会）

- 日時：1月2日 10:00
- 場所：介護施設前敷地
- 地元の介護施設（ワンワンネット）へコラボを依頼して実現した。
- 効率的な運営を図るためにSNSに詳しい人を集め、役員連絡用のグループLINEをつくるなど工夫した。
- 子どもがいる世帯へ参加を呼び掛け、当日は、参加者34人（子ども4人、保護者5人、自治会5人、介護施設関係者20人）で、和やかに開催された。

団体名 平田地区 活動地域 宇検村

I 地域の課題解決ワークショップ

(1) 地域の自慢できること

- ① 夕日や海などの景色がきれい。
- ② 住民が明るく社交的で、働き者が多い。
- ③ 飲み会などの交流の場が多い。

(2) 地域活動の課題

- ① 集落に売店はあるものの、品数が少ないため、買物支援のニーズがある。
- ② 医療機関への受診などのため移動支援のニーズがある。

(3) 地域の強み

- ① 家族での移住も含め、Uターン者が多い。
- ② 良い意味でお節介気質の人が多いため、顔のわかる関係性が構築されている。
- ③ 世代間交流が盛ん

(4) 地域の資源

- ① 動ける世代が多い。
- ② 休耕地が少ない。
- ③ 災害時などで移送手段として使用できる船がある。



2 作成したアクションプラン「はじめの一步」

(1) 1～2か月後の取組

① 実施内容

買物支援のため、移動販売車を誘致する。

② 方法等

9月頃に公民館で開催される役員会において、地域の売店に移動販売車を誘致できないか、民生委員等で話し合いをする。

(2) 半年後の取組

① 実施内容

地域住民の移動手段を確保する。

② 方法等

地域住民が、眼科・耳鼻科などの専門外来を受診する場合など、必要とするときに、見守りボランティアや民生委員が中心となり、定期バスと自家用車の併用や、社協のマイクロバスを活用して、平田地区から奄美市内の移動手段を確保する。

3 アクションプランの実施状況

(1) 上手くいっていること

- 移動販売車の誘致より先に、移動手段の確保に取り組むことになり、まずは対象者を限定して、マイクロバスに乗せて買物支援を行った。
- 対象者は一人暮らし世帯の方や買い物が困難な方とし、個別に連絡を取ったり、民生委員を通じて周知した。
- 対象者からは「大人数で行くと仲間との会話などで明るくなるので、買い物が楽しみになった」との感想があった。
- 買物支援の協議には、見守りボランティアや民生委員など、いろんな方が参加した。



(2) 困っていること

- 移動販売車の誘致の話を進めることができていない。
- 住民への説明が不足していたため買物支援の趣旨が伝わらず、対象者以外の住民から「不公平だ」との声があった。
- 個人所有の自動車や行政のマイクロバスの確保が困難である。
- 無償ボランティアでは限界があるため、事業継続のため有償化を検討している。

4 私たちの次の一歩

■ 買物支援の継続

今後も、集落での買物支援や移動販売車の誘致について、話し合いを継続していきたい！

- 買物支援を実施する中で、「売店の商品の充実を図れないか」、「一人暮らしや高齢者世帯の食事をより充実したものにつけられないか」という意見も出された。そこで、2月に「冷凍食品の試食会」を実施した。

2月の実施状況（冷凍食品の試食会）

- 日時：2月2日 11:30～15:00
- 場所：平田集落公民館
- 近隣住民も含め、13人の参加があった。
- 3月には試食会の振り返りを実施し、実際に商品として冷凍食品を置いてもらえないか等の話し合いを行うこととしている。

団体名 龍郷連合 川内・幾里 活動地域 龍郷町

I 地域の課題解決ワークショップ

(1) 地域の自慢できること

- ① 地域の連携が取れている。
- ② 伝統文化が継承できている。
- ③ 田袋があるなど自然が豊かな。

(2) 地域活動の課題

- ① リーダーのなり手がいない。
- ② 障がいのある方への避難時の支援
- ③ 地域活動への参加者が固定化している。

(3) 地域の強み

- ① 地域の連携が取れており、顔の見える関係性ができている。
- ② 支え合いマップが活用されている。
- ③ 元気な高齢者が活躍している。

(4) 地域の資源

- ① 集会所
- ② 酒蔵
- ③ きれいな桜並木
- ④ 世話焼きさん
- ⑤ サロン
- ⑥ 緊急時に対応してくれる消防団、医者、介護関係者がいる。
- ⑦ 得意分野や元職を生かした「プロ専門家」がいる。



2 作成したアクションプラン「はじめの一步」

(1) 1～2か月後の取組

① 実施内容

子どもを含め、地域住民との交流を図るために、「こけし作り」を実施する。

② 方法等

夏休み期間中の7月28日に、世話焼きさんと老人クラブが中心となり、川内集会所で、地域の先生の指導のもと行う。

(2) 半年後の取組

① 実施内容

地域住民との交流や伝統文化の継承を目的に、花見を実施する。

② 方法等

2月初めの日曜日に、世話焼きさんや老人クラブが中心となり、集落全員に声をかけ、豚汁と卵おにぎりをふるまう。

また、集落で採れた野菜や子ども用のお菓子を景品とした抽選会を行い、最後はみんなで八月踊りを踊る。

3 アクションプランの実施状況

(1) 上手くいっていること

- 「こけし作り」は計画どおりに実施でき、子どもや地域住民との交流を深められた。
- 近隣の地区からの参加もあり、集落内だけでなく、横の連携を図ることができた。
- こけしの材料には、集落内のエゴの木を活用するなど、地域の資源を生かしている。
- 夏休み期間中に開催したことで、小学生に参加してもらうことができた。



(2) 困っていること

- 親子での参加を呼び掛けるため、日程の設定が難しい。



4 私たちの次の一歩

■ 世代間交流の継続

これからも子どもを含め、地域住民の交流を深めていきたい！

2月の実施状況（花見）

- 日時：2月4日 10:00
- 場所：本茶峠
- 世話焼きさんを通して、老人クラブ、子ども会、育成会に声掛けを行った。
- 現地までは徒歩や自家用車の乗り合わせで来てもらった。
- 当日は、花見や食事会、抽選会、記念撮影、八月踊りなどで盛り上がり、大変楽しいイベントになった。
- 普段は来られない方も参加されるなど、子どもから高齢者まで一緒に交流することができた。



団体名 荒木集落① 活動地域 喜界町

I 地域の課題解決ワークショップ

(1) 地域の自慢できること

- ① 集落内に商店がある。
- ② 農業が盛ん
- ③ 結束力がある。

(2) 地域活動の課題

- ① 災害時の支援体制の整備
- ② 世代間の交流が少ない。
- ③ 行事・イベントへの参加者が偏っている。

(3) 地域の強み

- ① 青年層や壮年層が地域活動に協力的である。
- ② 高齢者が地域活動に協力的である。
- ③ 気軽に買い物に行ける。
- ④ 一集落・一校区の名残がある。

(4) 地域の資源

- ① 民俗芸能保存会
- ② 藤崎商店
- ③ 小学校跡地
- ④ ウリバマ（下り浜：ホエールウォッチングや夕日のビューポイント）
- ⑤ 漁港
- ⑥ 長寿会、地域女性連合、青年団
- ⑦ 共有地が多い。



2 作成したアクションプラン「はじめの一步」

(1) 1～2か月後の取組

① 実施内容

世代間交流を目的に、スポーツイベントとして長寿会レクリエーションを実施する。

② 方法等

9月18日に「ムタ」（集落の広場）で、長寿会が中心となっていく。

(2) 半年後の取組

① 実施内容

子どもを中心とした世代間交流を目的に、子ども食堂を開催する。

② 方法等

1月～2月頃に子ども育成会、長寿会及び地域女性連合の協力を得て、荒木公民館で実施する。

なお、できるだけ低コストで開催し、子どもは無料で利用できるようにする。

3 アクションプランの実施状況

(1) 上手くいっていること

- スポーツイベントには未就学児から高齢者まで多数の参加があり、進行にも協力的であった。
- 子どもたちの顔と名前が分かるようになり、コミュニケーションも上手く取れた。



(2) 困っていること

- イベントを実施するための費用をどのように捻出するか。
- 朝・昼・夕に集落放送を行い、イベントを周知したが、世代間交流を目的にしたスポーツイベントであるという本来の趣旨が参加者に浸透しなかった。



4 私たちの次の一歩

■ 世代間交流活動の継続

これからも世代間交流を目的とした行事を開催するとともに、子ども食堂の開催を目指していきたい！

2月の実施状況（昔遊び・おもちゃ作り）

子ども食堂は1月に町内で嘔吐下痢症の発生があったことから実施しなかったが、代わりに、昔遊びや昔のおもちゃ作りを教えるイベントを実施した。

- 日程：2月25日
- 長寿会と育成会で、アダン（亜熱帯から熱帯の海岸近くに生育し、密集した群落を作る常緑小高木）の葉を使った昔ながらのおもちゃ作りや昔遊びを楽しんだ。
- 大人14人、子ども8人（小学生7人、未就学児1人）が参加し、長寿会が講師となって一緒に、アダンの葉で「飛行機」を作った。
- 完成後は、子どもたちが、扇風機の風でプロペラを回すなど、とても喜んでいる様子であった。



団体名 荒木集落② 活動地域 喜界町

I 地域の課題解決ワークショップ

(1) 地域の自慢できること

- ① 団結力があって地域活動が盛り上がる。
- ② 黒糖、白ごま、黒糖焼酎、海ぶどうなど、特産物が豊富
- ③ ウリバマ（下り浜）からの夕日

(2) 地域活動の課題

- ① 高齢者と子どもの交流が少ないので方言が伝承されていない。
- ② コロナ禍で地域活動が減少した。
- ③ 地域内にたばこ、ペットボトルなどのゴミのポイ捨てが多い。



(3) 地域の強み

- ① 各団体（長寿会、青年団、壮年団、地域女性連合、子ども育成会）のまとまりがある。
- ② 男女ともに、生き生きサロンへの参加者が多い。
- ③ 一校一集落で、まとまりがある。
- ④ 新たな施設がオープンするため交流人口の増加が見込まれる。



(4) 地域の資源

- ① ウリバマ（下り浜：ホエールウォッチングや夕日のビューポイント）
- ② 車エビ、海ぶどう、養殖場
- ③ 荒木食品（黒糖加工品等）
- ④ オオゴマダラの蚕が見学できる場所
- ⑤ 荒木盛り上げ隊、青年団、壮年団、地域女性連合、子ども育成会

2 作成したアクションプラン「はじめの一步」

(1) 1～2か月後の取組

① 実施内容

小学生と長寿会との世代間交流を目的に、方言を取り入れた昔遊びやゲームを実施する。

② 方法等

8月に長寿会が中心となって、荒木サロンで実施する。

(2) 半年後の取組

① 実施内容

地域交流を目的に、餅つきを実施する。

② 方法等

12月に地域の各団体と連携して、荒木サロンで実施する。

3 アクションプランの実施状況

(1) 上手くいっていること

- 昔遊びの代わりとして、グラウンド・ゴルフ大会を実施できた。
- 子どもたちの参加が多く、未経験の子も楽しく参加できた。
- 子どもと高齢者の混成チームを編成することで世代間交流ができ「地域の子どもの顔・名前が分かるようになった。」「子や孫と一緒に出来たのが楽しかった。」という声があった。
- 水分補給など、参加者の体調に配慮した運営ができた。



(2) 困っていること

- もう少し涼しい時期に開催すべきであった。
- 集落放送だけでは広報が足りなかった。
- 長寿会のイベントが世代間交流に変わったため、趣旨を聞いていなかった人から不満が聞かれた。
- 男性の参加が少ない。



4 私たちの次の一歩

■ 地域交流の継続

地域行事を継承していくために今後も積極的に参加を呼び掛けていきたい。

1月の実施状況（拝賀式への参加）

半年後の取組として計画した餅つきは、拝賀式と時期が重なったため実施しなかった。

- 日時：1月1日 10:00
- 場所：旧荒木小学校体育館
- 大人30人、子ども21人（小学生9人、中学生6人、高校生6人）が参加した。
- 区長の新年の挨拶のあと、子どもたちが今年の抱負を発表した。
- 終了後は、荒木サロンで新年会を行った。

